

# World Tourism Update

Bimonthly Newsletter of Tourism Education & Research

WTU No.7 / 2014.10

## UNWTO, WTTC ー2 機関を中心とした観光教育、研究に関わる世界の情報ー

### *Statement on travel and transport in relation to Ebola virus disease (EVD) outbreak*



2013年12月にギニアで発生したとされるエボラ出血熱の流行はリベリア、シエナリオネを経て、最近ではナイジェリアでも感染が確認されている。

2014年8月8日、WHOは国際健康規約に基づき、「国際的な公衆衛生上の緊急事態」を宣言した。更なる感染拡大を阻止するため、WHO、ICAO、

UNWTO、ACI、IATA、WTTCは、状況を絶えず監視し、また観光・旅行部門や旅行者に対して、最新情報の提供を行う「旅行と交通の専門調査団 (Travel and Transport Task Force)」を結成した。

エボラ出血熱はインフルエンザや結核とは異なり、感染者や動物、その死骸の血液や分泌物に直接触れない限り、呼気による感染はない。そのため、機内でのエボラ出血熱への感染の可能性は非常に低いと見られている。しかし感染を防ぐためには、危険性のあるイベントには関わらないこと、衛生面には十分に注意することが必要となる。

<http://www.who.int/mediacentre/news/statements/2014/ebola-travel-transport/en/>

### *First UNWTO International Congress on Tourism and Pilgrimages explores the link between tourism and spiritual routes*



現在、聖霊の道、巡礼の道の発展が世界で注目されている。これを受け、UNWTO、スペイン観光エネルギー工業省、ガリシア州政府が協働し、「第一回観光と巡礼の道国際会議」を開催した。2014年9月17～20日にサンティアゴデコンポステラで開催された同会議では、聖霊の道、巡礼の道が文化的

理解、神域や祖先の足跡に関わる自然文化遺産の保護に寄与するのと同様に、持続可能で責任ある観光に対しても大きく貢献することが強調された。UNWTOのタレブ・リファイ事務局長は、「その歴史、文化、自然的な特性により、巡礼の道は異文化間の対話を深め、宗教的、スピリチュアルな史跡の保護を進めるという観光の可能性を示してくれる。」と述べた。UNWTOの推計によると毎年3億～3億3000万人の旅行者が世界の主要な宗教史跡を訪れており、スピリチュアルツーリズムの重要性は、国内・国外旅行の双方において高まっている。

同会議には世界各地から専門家が集い、地域発展の旗手としての巡礼地の役割やスピリチュアルツーリズムに対する関心が高まった背景、持続可能な観光商品として発展、拡大していくための戦略などについて熱心な議論を展開した。

<http://media.unwto.org/press-release/2014-09-16/first-unwto-international-congress-tourism-and-pilgrimages-explores-link-be>

<http://ethics.unwto.org/event/1st-unwto-international-congress-tourism-pilgrimages>

### *International tourism up by 5% in the first half of the year*



UNWTO世界観光指標(World Tourism Barometer)によると、2014年上半期、国際観光客到着数は4.6%の成長を示した。2013年同期比では2,200万人の増加となり、総計5億1,700万人となった。

最も力強い伸びを見せたのは両アメリカ大陸(6%増)で、アジア・太平洋及びヨーロッパ(共に5%増)が続いた。準地域別では、南アジア及び北ヨーロッパ(共に8%増)と北東アジア及び南・地中海ヨーロッパ(共に7%増)の成長が著しい。UNWTOの

タレブ・リファイ事務局長は、「これらの結果は、観光が世界中で開発及び経済の機会を提供していること、また近年の上昇傾向が確かなものであることを示している。」と指摘し、「地政学的、経済的な困難にもかかわらず国際観光客到着数が2010年から平均5%増加したことは、より大きな経済成長、より多くの輸出及び雇用につながる。」と続けた。現段階では、これらの結果はUNWTOによる2014年当初の予測に沿ったものである。年間の国際観光客到着数は世界全体で4%～4.5%増加することが予想されており、この数値はUNWTO長期予測を上回るものである。

<http://www.unwto-ap.org/image/news/84-1.pdf>

## Research and Journals — 主な論文、特集号、新刊紹介 —

### 南紀熊野ジオパーク



ジオパークとは「地球」を意味する接頭辞“geo”と公園“park”との合成語である。「その地域の大地の成り立ちを知るだけでなく、歴史・文化・動植物・食などを通じて、大地と人の暮らしの関わりを実感して楽しむところ」などと説明される。中国語では「地質公園」と訳されることもあってか、ともすれば地質学的巡検が目的の「地学学習観光」のための(マニアックな)スポットの集合体と思われがちだが、必ずしもそうではない。世界ジオパークネットワークが掲げるガイドラインの重点は、そのコンテンツを活かした持続可能な経済活動にある。従って当然、学習目的ではない普通の観光のニーズにも応えねばならない。「もの」を認定する世界遺産と異なり「活動」が認定対象であるため、ある意味では世界遺産よりも認定にこぎつけるのは困難とも言われ、さらに一度認定を受けてもその後4年に1度の再審査をパスし続けなければならない。

ジオパーク活動はユネスコの「支援を受ける」という形になっている。ジオパークにはグローバルに「世界ジオパーク」と名乗ることを認定された地域と、各国内でのみ「ジオパーク」と名乗ることができる地域との2段階がある。世界ジオパークの分布は偏っておりヨーロッパと中国に多い。本稿執筆時点(2014.10 上旬)で、日本国内にはジオパークは36地域あり、うち7地域が世界ジオパークの認定を受けている。また日本国内でジオパークを目指す地域としては17地域が名乗りを上げている。和歌山県においても世界認定を目指し、新宮市・白浜町・上富田町・すさみ町・那智勝浦町・太地町・古座川町・北山村・串本町の9市町村からなる「南紀熊野ジオパーク」構想を立ち上げ、8月末に日本ジオパークの認定を受けたばかりである。世界認定を目指し活動が加速するはずで、今後の推移が注目される。

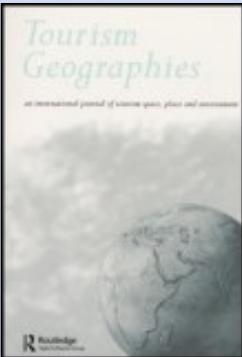
(執筆 中串孝志准教授)

#### 《参考 URL》

Global Network Of National Geoparks	<a href="http://www.globalgeopark.org/">http://www.globalgeopark.org/</a>
日本ジオパークネットワーク	<a href="http://www.geopark.jp/">http://www.geopark.jp/</a>
南紀熊野ジオパーク	<a href="http://www.nankikumanogeo.jp/">http://www.nankikumanogeo.jp/</a>

### 「Tourism and toponymy: commodifying and consuming place names」

*Light, D., Tourism Geography, 2013. vol. 16, 1: pp. 141-156*



「Toponymy」、すなわち地名研究とは、地名の由来や起源の研究のことを指す。一見、直接的に観光と関係がなさそうだが、その土地の特有な名前によって地域が観光地の対象となり得ることがある。筆者は、事例を挙げつつ、次の観光のまなざしを引き寄せる特殊性について説明する。例えば、Mars (アメリカ) や Hell (ノルウェー) などの地名は、その言葉自体が珍しいわけではないが、地名としての使用されるのは稀なため、観光地としての注目を集めてしまう。しかし、この地名がある特定の言語(例えば英語)においてのみ、そのような評価が与えられるということに留意すべきである。そして、珍しい地名は観光客を引き寄せるのに対し、その場所に特別なものが少ないというケースが多い。

地名と関係がある文化的な有意性によって土地に注目を集めるという事例は多くある。例えば、The Beatles と関係あるイギリスの Penny Lane のケースでは、観光客を多く集客するのに対し、土地自体は特別な通りではないため、道路標識が観光のまなざしを引き寄せる。このように、筆者は様々なケースを述べつつ、観光会社の役割や、観光客の行為、お土産としての「場所の消費」を解説し、あまり調査されていない観光と地名研究の関係を明らかにする。

(執筆 M1 プロガノ・リカルド・ニコラス)

## Conferences, Seminars — 世界各地の主な学会(CFP 情報)、セミナー —

- **2015/4/12 - 15 ICTTB 2015(International Conference Sustainable in Tourism Technology Logistics & Innovation Business), Paris, France**



概要：本学会は観光に関する技術や輸送についての研究を発展させるために約 150 名の参加者がそれぞれの考えを発表し、共有することを目的としている。学会への参加は、参加者にとって学術的なネットワークの拡充に寄与するものとなる。

CFP：発表要旨 2014/10/30  
フルペーパー 2014/10/15

<http://www.icbtstontoronto.com/14850578/paris>

● **2015/2/26 - 27 Second International Conference on Tourism & Hospitality Management 2015 (ICTHM 2015), Manipal, Karnataka, India**



概要：本学会は最新の研究報告を聞き、また世界中からの聴衆の前で自身の研究について発表することで、研究者が新たなネットワークを構築することを目的に開催される。ぜひ、国際的な観光についての集いに参加し、活気あふれる学問都市であるマニパールを十分に堪能していただきたい。

CFP：発表要旨 2014/10/15  
フルペーパー 2014/11/30

<http://www.tourismconference.info/>

● **2015/6/18-21 The 5th Advances in Hospitality and Tourism Marketing and Management, Beppu, Japan**



概要：本学会は、研究者、観光業従事者、行政、その他の組織の代表者に、ホスピタリティや観光マーケティング、観光経営に関する最先端の研究や実践報告事例について情報交換を行い、その知見を共有する場を提供する。報告内容は理論、実践、方法論と多岐にわたり、異なる視点からの活発な議論が望まれる。

CFP：発表要旨 2014/11/15  
フルペーパー 2015/2/15

[http://ama-academics.communityzero.com/elmar?go=6085419&utm\\_source=dlvr.it&utm\\_medium=facebook](http://ama-academics.communityzero.com/elmar?go=6085419&utm_source=dlvr.it&utm_medium=facebook)

**Magazine** — 世界で発行されている観光雑誌を紹介 —



「The Sunday Time Travel」

イギリスの月刊マガジン。週刊 The Sunday Times の旅行部門を発行している News UK の一部であるが、内容は全く異なる。The Sunday Times Travel は旅行に関するあらゆる情報、特集、コンペティション、世界各地の写真等が盛り沢山の内容で詰め込まれている。2003年の初刊以降、数々の賞を受賞しており、近年では、2011、2012年に British Travel Awards、2012、2013年には Travel Press Awards を受賞している。

<http://www.thesundaytimes.co.uk/sto/travel/>

**Topics** — コラムツーリズムに関する世界のニュース —

院生、教職員からも受け付け中！

★ **5分間の宇宙旅行に中国人300人が殺到、料金1000万円**

(2014.6.13.AFP BB News)



中国で、宇宙への強い憧れを持つ300人以上が5分間の宇宙旅行のため約10万ドル（約1000万円）のチケットを予約したと国営メディアが報じた。国営英字紙チャイナデイリーによると、オランダの宇宙旅行会社「スペース・エクスペディション社 SXC」が企画した旅行のチケットをネットオークションサイト「淘宝（タオバオ）」で販売したところ、305人が購入したという。旅行参加者は2人乗りの宇宙船に搭乗して大気圏を飛び出し、5～6分間宇宙飛行することができ、めったに見られない景色と無重力経験が楽しめる。ただし、旅行日程は未定。近年、宇宙旅行熱が高まりを見せているが、定期的な旅行を開始した民間企業は、まだない。参加者は体重125キロ以下という制限を守らなければならない。旅行に先立ち模擬飛行訓練と無重力トレーニングを受けることが義務付けられている。

(観光学研究科 M1 明山 文代)

<http://www.afpbb.com/articles/-/3017685>

★ **旅の“すべて”を凝縮した総合展示会「ツーリズム EXPO ジャパン」が初開催！** (2014.9.24.マイナビニュース)



世界最大級の“旅”に関する総合展示会「ツーリズム EXPO ジャパン」が、9月25日（木）～28日（日）の4日間、東京ビッグサイト東展示棟・会議棟で開催される。旅行会社や官公庁、観光団体、鉄道、航空、ホテル、レジャー施設など、旅に関するあらゆる企業・団体が集う予定で、展示ブースの数は1500を超える。最大の特色は国内旅行・海外旅行を問わないボーダレスなイベントである点。事実、国内47都道府県・世界150以上の国と地域が集結する。より質の高い観光立国を達成すべく、政府は観光にかかわる全ての産業と地域の力を集め、オールジャパンの体制を作ろうとしている。その意欲的な戦略の象徴的な場として新たに「ツ

ーリズム EXPO ジャパン」がスタートした。

<http://news.mynavi.jp/articles/2014/09/24/expo/>

★ **新大型客船、神戸・那覇など6カ所寄港 高い経済効果に期待** (2014.9.15. 産経ニュース)



乗客定員約 4200 人の大型の新造クルーズ船が来年、アジアに投入され、神戸や広島など日本の 6 カ所の港に立ち寄ることがわかった。日本に寄港する客船では最大となる。日本で船旅といえば富裕層の娯楽のイメージが強いが、外国客船の比較的手軽な価格のツアーの登場で、アジアでクルーズ人口が増加。港を持つ自治体は、大型客船の寄港による経済効果を狙って誘致合戦を展開している。

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/140915/trd14091506300002-n1.htm>

★ **日本はイスラム圏の観光客を呼び込めるか飲食店が直面する「ハラール食」への希望と高い壁**

(2014.9.25. Diamond Online)



9月15日、東京都代々木にある服部栄養専門学校でマレーシアのハラール認証機関である HDC (ハラール産業開発公社) から講師を迎え『ハラール調理セミナー』が開催された。ハラールとはアラビア語で「許された」という意味の言葉で、イスラム教の教義に則った商品やサービスを意味しており、食品をはじめ物流や医薬品、イスラム金融なども含まれる産業のキーワードだ。イスラム教徒にとってハラール食品を食し、ハラール商品を使うことは義務なのだという。日本政府は現在、観光立国のための行動計画を作成し、2020年の東京オリンピックまでに訪日外国人の数を2倍にするという目標を掲げている。そのためには東南アジアからの観光客を増やすのは最優先課題。ところが例え

ばイスラム教徒の多いマレーシアでの人気の旅行先はシンガポールやインドネシアで、日本を訪れる観光客の数はまだ少ない。2020年の東京オリンピックに向け、いわゆる「おもてなし」にもとづくイスラム圏への対応は絶対要件だ。オリンピックが終わればハラールに対する関心は冷めるという意見もあるが、そうした点も含めて慎重に議論を進めていく必要があるだろう。

<http://diamond.jp/articles/-/59569>

★ **訪日外国人向け無料Wi-Fi、来年度から実証実験 総務省と観光庁** (2014.8.29. 産経ニュース)

総務省と観光庁は 28 日、無料の公衆無線 LAN「Wi-Fi」の認証を簡略化するための実証実験を来年度実施する方針を明らかにした。2020年の東京五輪に向けて増加が見込まれる訪日外国人に対し、世界最高水準の通信環境を整えることがねらいだ。スマートフォンなどの端末が 1 度でも認証を受ければ、どこに移動しても自動的に接続できるようなシステムを目指す。来年度概算要求費 2 億 5 千万円を要望しているが、具体的な規模や方法については今後、議論していく。協議会には関連事業者や自治体など、約 1000 団体が参加する見通しである。

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/140829/biz14082916110005-n1.htm>

★ **東北観光PR映像 東京でお披露目へ** (2014.9.26. 河北新報)



東北経済産業局は東北経済連合会などと共同で、新潟を含む東北 7 県を海外にアピールするプロモーション映像を制作した。外国人観光客が全国で増加する中、東北は東日本大震災前の水準を下回っている。文化や温泉など東北の魅力を詰め込んだ映像で、地域一体で売り込みを図る。

映像は約 7 分間。東北の四季の美しさを伝える観光名所の風景で始まり、中尊寺や各地の工芸品など歴史や文化の奥深さを紹介。温泉や食といった観光素材も豊富に盛り込み、7 県の各知事による海外観光客向けのメッセージで締めくくる。

映像は英語、中国語の字幕付き。26日に東京ビッグサイトで始まる世界最大級の旅行見本市「ツーリズム EXPO ジャパン 2014」でお披露目する。台湾、タイなどの観光フェアでも放映する予定。

[http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201409/20140926\\_72003.html](http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201409/20140926_72003.html)

和歌山大学 観光学部 観光教育研究センター  
Location: 観光学部研究棟 208  
Contact us: [tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp)  
<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/tourism-er.html>